

リバティおおさかの人権資料を
“大阪の知の拠点”大阪公立大学で
未来へ継承するために!

リバティおおさかが 寄付金を募集

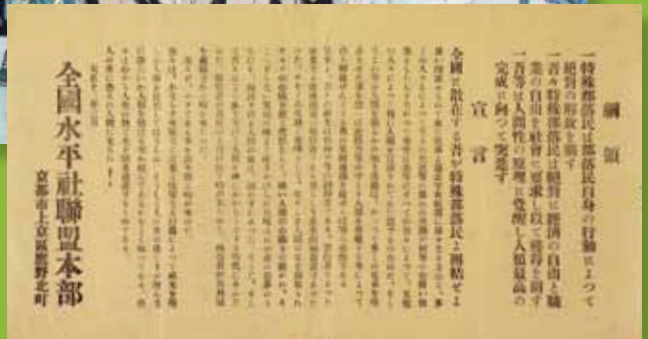
人権資料は社会的共有財産!!
リバティおおさかから最後のお願ひ
2億円の寄付金募集に協力を!



島崎藤村「破戒」
(初版本)



「江戸上りの図」(部分)



全国水平社第2回大会「綱領・宣言」



「葛の葉物語」の役者絵(部分)



アットウシ



リバティおおさか

大阪人権博物館



リバティおおさかのお願い

公益財団法人 大阪人権博物館 理事長

石橋 武

リバティおおさかは、1985年12月に開館した日本で初めての“人権に関する総合博物館”です。リバティおおさかは現在まで所蔵する多くの人権資料を保存管理し、また展示公開と教育普及という博物館活動を通して日本の人権確立に重要な役割を果たし、2020年5月まで入館者は170万人を数えました。

しかし2020年6月の大阪市との和解^(注)によって建物が失われたため、収蔵庫と展示室を備えた博物館活動を断念しなければならなくなりました。そこで移動展や企画展など最低限の博物館活動を継続しながら再出発を図るため、2022年4月に開学した大阪公立大学に対して、人権資料の移管による保存管理を基礎として、研究教育、展示公開に活用することを要請し、現在では2025年度を目途とした実現に向けて、大阪公立大学と協議を重ねています。これが実現すれば、社会的共有財産の人権資料を未来に継承し、日本の人権確立に大きく貢献することになると確信しています。

そこで今回、リバティおおさかは大阪公立大学において、これらを確実なものとするため、2億円を目標額とした寄付金を募集することにしました。約40年にわたるリバティおおさかの歴史と成果を継承するため、皆様のご理解をいただき、寄付金の募集にご支援とご協力いただけますよう、何卒よろしく申し上げます。

注・建物の撤去による大阪市有地の返還をめぐる2015年から2020年までの民事裁判

人権資料の 大阪公立大学での活用



大阪公立大学杉本キャンパス（提供：大阪公立大学）

リバティおおさかが大阪公立大学に対して、人権資料の移管による保存管理を基礎として、研究教育と展示公開の活用を要請したのは、大阪公立大学の存在意義と社会的使命を重要視したからです。大阪公立大学は2022年4月に大阪府立大学と大阪市立大学との統合によって開学した、“大阪の知の拠点”をめざした日本有数の総合大学で、2025年に向けて新しい森之宮キャンパスが建設されています。

その大阪公立大学の最も重要な「憲章」では、「人類普遍の真理の探究と、人権・自由・平等・平和の尊重という精神は、極めて大きな意味をもっている」と述べられ、これを基礎として「世界に飛躍する地域の信頼拠点として、大都市大阪ひいては国際社会の発展に寄与する」との展望が示されています。

この大阪公立大学の「憲章」は、国内的のみならず国際的な潮流になった人権確立にとって大きな意味があり、リバティおおさかの基本理念とも一致します。したがって大阪公立大学こそが、リバティおおさかの基本理念を継承し、人権資料の保存管理、展示公開と研究教育への活用にふさわしく、日本の人権確立に新たな展望を切り拓くことができると考えています。

リバティおおさかの 人権資料がもつ社会的価値

リバティおおさかは開館以来、社会的共有財産の人権資料を精力的に収集、保存、管理してきました。その人権資料とは、被差別部落、在日コリアン、アイヌ民族、ウチナーンチュ（沖縄人）、女性、性的マイノリティ（LGBTQ）、障がい者、ハンセン病回復者、公害被害者など多くの人権に関する分野におよび、各地から集められた古文書、古地図、屏風、絵画、錦絵、典籍、卷子、文献、運動資料、ポスター、民具、産業資料、生活資料、映像、写真、レコードなどです。その点数は3万点にもものほり、日本有数の貴重な人権資料に関する宝庫になっています。

その人権資料については、次のような特徴をもっています。まず第1に古文書と古地図では、近世における被差別民の仕事、生活、差別をはね返そうとする活動を知ることができます。第2に屏風、絵画、錦絵では、例えば「朝鮮通信使行列図巻」では中・近世における朝鮮通信使の一行、「江戸上りの図」で



「江戸上りの図」

近世に琉球王国から江戸へ向かう使節団の行列を描いたもので、絵師は第3代広重（重政）です。使節団の構成員は、輿に乗る正使（王子）や副使のほかには薩摩藩からも藩士や役人が加わり、総勢1000人を超える壮観な行列になりました。

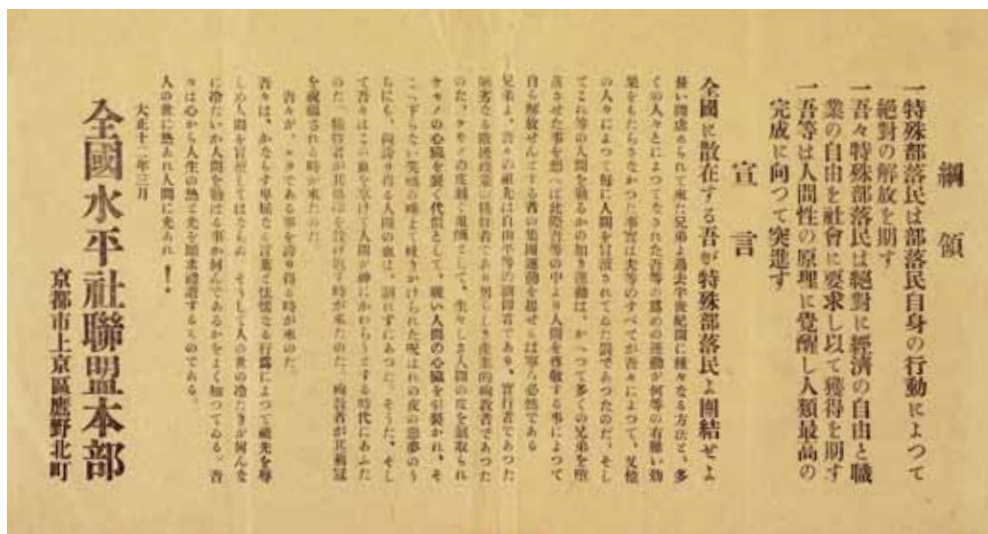
島崎藤村『破戒』（初版本）

作家の島崎藤村が1906年に出版した、近代小説を代表する有名な作品です。部落出身の青年教師である瀬川丑松が、父から厳しく戒められていた「出自を隠すこと」を破り、生徒の前で部落出身であることを告白して教職を去るという物語になっています。2022年には映画化され、大きな注目をあびました。



は近世における琉球人の行列、「洛中洛外図屏風」では近世における被差別民など多様な民衆が描かれています。第3に典籍、卷子、文献では、例えば杉田玄白の『蘭学事始』では被差別民が果たした医療への貢献、島崎藤村の『破戒』(初版本)では近代における被差別民の苦悩、細井和喜蔵の『女工哀史』では女性の苛酷な労働の実態などを知ることができます。第4に運動資料、ポスターでは、例えば全国水平社をはじめとした社会的差別を撤廃しようとした被差別民の足跡を知ることができ、私たちに人権確立運動の重要性を伝えるものになっています。第5に民具、産業資料、生活資料では、被差別民の仕事、生活、文化などを知ることができます。第6に映像、写真、レコードでは、被差別民の仕事、生活、文化などを視覚、聴覚によって確認することができます。

これらの人権資料は、さまざまな差別の歴史と現状を知ったうえで、人権確立を展望するために不可欠かつ重要なものです。したがって、これらの人権資料のなかには、教科書をはじめ多くの書籍で紹介されているように、きわめて重要な社会的価値を有すると評価されています。なお重要な人権資料については、QRコード1によって写真と詳しい解説を見ることができます。→ QRコード-1



全国水平社第2回大会「綱領・宣言」
 1922年3月3日に創立された全国水平社の第2回大会(1923年3月3日)の綱領と宣言です。いずれも創立大会宣言とほぼ同じ内容で、部落の人びとの主体的な行動によって部落解放を実現し、そのためには人間を尊敬することが重要であると訴えました。



「洛中洛外図屏風」(六曲一双)
 近世後期に、かつての京都の町並みを描いたものです。曲芸、軽業を披露する年末に頭にシダを付けて祝言をとなえるなど、被差別身分の芸能民が多く登場しています。

大阪公立大学での 収蔵庫と展示公開の必要性

社会的共有財産としての価値をもつ人権資料については、まず資料の数量と内容などの全体を把握するため、目録の作成が不可欠です。そのためにリバティおおさかでは現在、資料に関する目録化の作業を進めています。

そして大阪公立大学では、人権資料を未来へ永く継承するため、安全かつ完全に保存管理される必要があります。そのためには、温度や湿度などにも配慮した収蔵庫をぜひとも設置し、とくに近年では地震や自然災害が多く発生していますので、これらに対する万全の備えも重要です。

大阪公立大学で予定されている人権資料の展示公開にあたっては、資料の破損や盗難などを配慮した安全性に万全を期したうえで、一定の広さと照明などの設備が必要になります。この人権資料の展示公開は、大阪公立大学の研究教育に活かされるだけでなく、小学校・中学校・高校・大学の人権教育、大人をはじめとした多くの人びとが差別と人権を学ぶ人権啓発に貢献し、これにリバティおおさかも協力していく予定です。



リバティおおさかの収蔵庫と展示室

リバティおおさかの寄付金募集

大阪公立大学で人権資料の保存管理、研究教育、展示公開などが実現した後の継続的な運営については、大学自身が考えるべき課題です。しかし2025年度を目途とした人権資料の移管、収蔵庫の設置、研究教育、展示公開などでの活用にあたっては、その初期費用として多くの資金が必要になります。

これについては大阪公立大学を支える大阪府と大阪市の援助が必要ですが、リバティおおさかが募集する寄付金にに応じていただいた、人権確立に取り組んでいる多くの個人と団体の意見と希望を反映させることによって、リバティおおさかがめざす基本理念の大阪公立大学での継承に大きな力になると考えています。そこでリバティおおさかは、2億円を目標として寄付金を募集することにしました。

この多額の寄付金を集めることは、容易でないことを承知しています。これまでリバティおおさかを活用し、支援と協力をいただいていた多くの個人と団体、それに人権確立に取り組んでおられる各方面からの、ご支援とご協力をぜひともよろしくお願いいたします。

1…目標金額 2億円

2…募集期間 2023年12月～2025年3月

3…使途

- ①リバティおおさか人権資料目録の作成
- ②大阪公立大学への人権資料の移管
- ③大阪公立大学での人権資料の保存管理のための収蔵庫の設置
- ④大阪公立大学での人権資料を基礎とした研究教育と展示公開への活用

4…募集対象 寄付金募集に賛同いただける個人と団体

個人寄付：1口 5,000円
団体寄付：1口 30,000円 } ※複数口を歓迎します

5…申込方法

①ゆうちょ銀行

同封のゆうちょ銀行の払込取扱票に必要事項を記入し、振り込んでください。

ゆうちょ銀行 口座記号番号 00970-1-239706

口座名称 公益財団法人 大阪人権博物館

②銀行振込の場合

申込書をホームページからダウンロードのうえ、必須事項を記入し、郵送、FAX、メールのいずれかで申し込み、下記の口座に振り込んでください。

●振込口座 リソナ銀行 桜川支店

普通口座2715448

口座名義 公益財団法人 大阪人権博物館

理事長 石橋 武

※手数料、送料はご負担ください。

●申込書の送付先

公益財団法人 大阪人権博物館 寄付金担当

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37

FAX 06-4301-7784

メール kifukin@liberty.or.jp

●応援メッセージ

リバティおおさかへの応援メッセージをいただける方は、寄付申込書の2枚目にご記入いただき、上記の申込書送付先までお願いします。

→QRコード-2 リバティおおさかのホームページ寄付金募集のページにつながります。

6…返礼品

人権資料の写真と解説をデザインしたオリジナルクリアファイル（非売品、6点）を返礼品として、個人1口につき1点、団体については6点を差し上げます。なお、図柄の指定はできません。



わたしたちも応援します



内田龍史 (関西大学教授)

差別の撤廃と人権の確立のためには、「いる」のに「いない」、「ある」のに「ない」ことにされがちな被差別マイノリティの存在や経験を、だれもが学べる場が必要です。それが大阪人権博物館、再開を切望します。



岸 正彦 (京都大学教授)

「人権」とは与えられるものではありません。それは長い闘争の歴史のなかで勝ち取られたものなのです。これからもこの「人権」を大きく育てていくために、まず過去を知る必要があります。そのために必要な博物館です。



黒川みどり (静岡大学教授)

部落問題をはじめ人権問題の理解を広め基礎的な研究を発展させていくためには、大阪人権博物館が所蔵する貴重な資料の保管、そしてその活用は不可欠であり、新たな地での活動の再建を強く望みます。



駒井忠之 (水平社博物館館長)

リバティおおさかに信託された人権資料は、私たちの未来です。先人の努力の結晶を、私たちの権利を、未来の人権を、私たちの手で守りましょう。



高田一宏 (大阪大学教授)

博物館の建物はなくなってしまいましたが、「自由と平等」を求めるリバティおおさかの精神は不滅です。リバティおおさかの再出発のために、皆さまのお力添えをお願いいたします。

リバティおおさかの沿革

- 1980年 1月 大阪人権歴史資料館の設立を構想
- 1982年 8月 大阪人権歴史資料館設立準備室を設置
- 11月 財団法人を設立、初代理事長・和島岩吉
- 1983年 5月 第1回「ミニ人権展」を開催
- 1984年 4月 大阪人権歴史資料館事務局を設置
- 1985年12月 大阪人権歴史資料館として開館、初代館長・藤原 恵、第1回特別展「なにわ再発見一太鼓のふるさと」を開催
- 1988年 6月 第1回企画展「狩人の夢—オーストラリア・アボリジニーの世界」を開催
- 1990年12月 開館5周年記念式典を開催
- 1995年12月 増築とリニューアルオープン、大阪人権博物館に改称
- 1997年10月 開館以来の入館者50万人
- 2004年 2月 開館以来の入館者100万人
- 2005年12月 2度目のリニューアルオープン
- 2010年12月 常設展示を一部変更
- 2012年 3月 財団法人から公益財団法人に移行
- 2013年 4月 大阪府・大阪市の補助金停止によって自主運営を開始
- 2015年10月 大阪市との間で民事裁判を開始
- 2020年 5月 再出発に向けて休館、開館以来の入館者170万人
- 6月 民事裁判で大阪市と和解
- 2021年 8月 第1回移動展「部落問題って何だろう?」を開催
- 2022年 8月 大阪公立大学に人権資料の保存管理、研究教育、展示公開を要請
- 2023年 4月 大阪公立大学とリバティおおさか資料移管協議会を設置

リバティおおさか 大阪人権博物館

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル5階
公益財団法人大阪人権博物館 TEL. 06-4301-7783
メール: kifukin@liberty.or.jp
ホームページ <https://www.liberty.or.jp/>



QRコード-1
人権資料の解説



QRコード-2
寄付サイト

FAX. 06-4301-7784